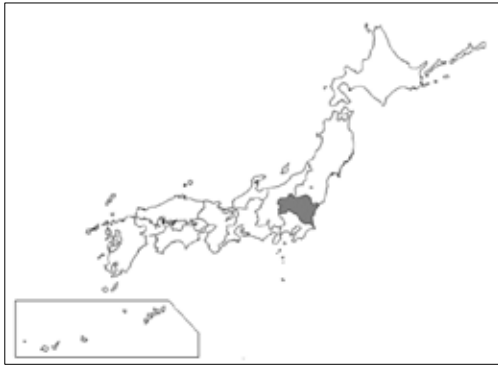


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)

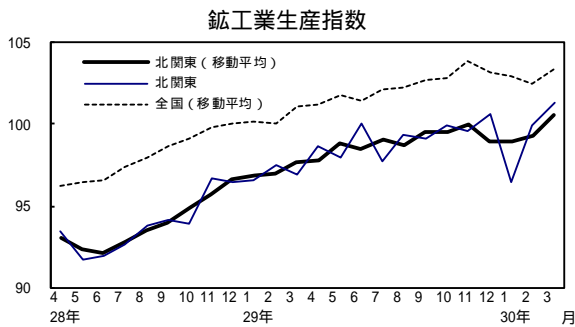
前回からの主要変更点

	前回 (平成 30 年 2 月)	今回 (平成 30 年 5 月)	
住宅建設	減少	大幅に減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

1 - 3 月期には、「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、減少した。「電子デバ、電気・情報通信」は、増加した。「輸送機械」は、減少した。「汎・生産・業務用機械」は、減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、減少した。



- (備考) 1. 22年=100、季節調整値。北関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び北関東の大線は中心3か月移動平均。
 3. 北関東は内閣府にて算出。

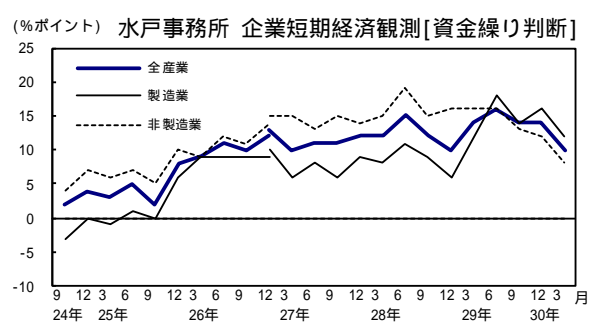
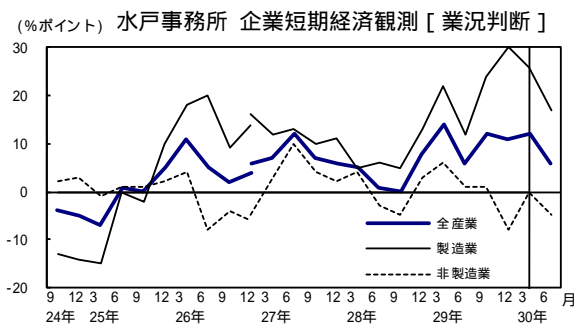
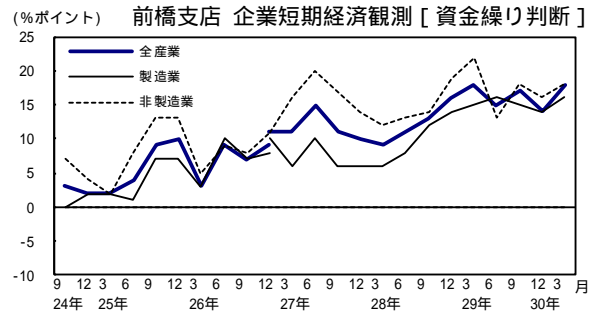
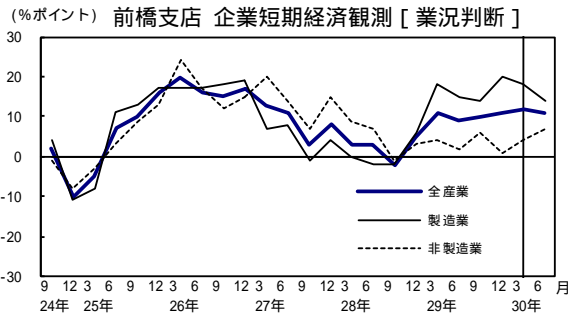
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
石油・石炭、化学、プラ製品	19.8	0.8	2.0	3.2	1.0	2.1
電子デバ、電気・情報通信	19.5	2.3	1.0	0.8	2.8	2.5
輸送機械	18.4	1.1	0.5	6.9	9.5	3.0
汎・生産・業務用機械	16.1	5.0	0.6	6.8	4.8	4.0
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	13.0	1.0	0.7	3.2	2.9	0.0
鉱工業	100.0	1.3	0.8	4.1	3.5	1.4

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 1 - 3 月期、3 月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの。

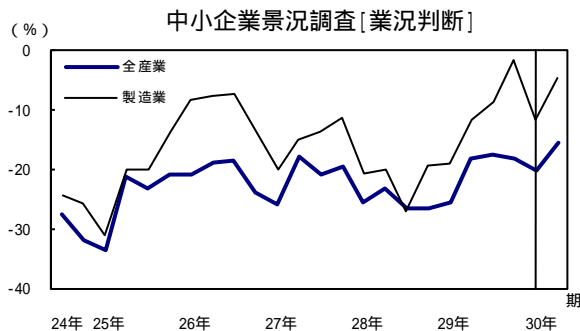
(2) 日銀短観における前橋支店管内の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。
水戸事務所管内の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年6月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [企業動向関連 (現状)]

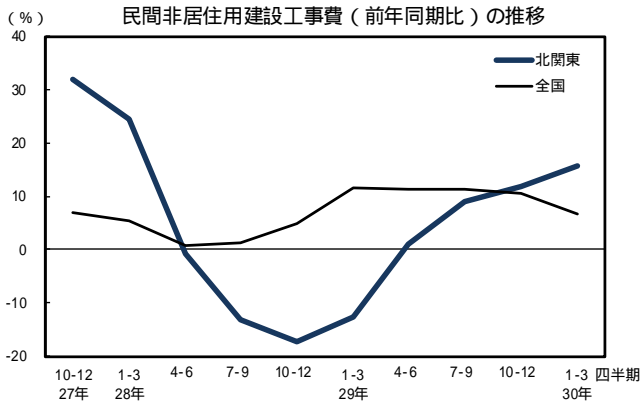
「物的には前年並みだが、前年から、国土交通省のドライバー不足改善のための運賃や附帯作業のルール変更の奨励などがあり、運賃上昇、ドライバーの作業負担などは良い方向に向かっている。しかし、全体的なドライバー不足はまだまだ改善されていない(輸送業)」などの回答がみられた。

(3) 北関東

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて大幅に増加している。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)



	29年度実績見込み	30年度計画
全産業		
前橋支店	3.0 (4.8)	2.1
水戸事務所	7.8 (11.3)	3.3
製造業		
前橋支店	1.7 (6.9)	3.4
水戸事務所	11.9 (15.0)	4.3
非製造業		
前橋支店	8.1 (4.8)	3.0
水戸事務所	0.7 (1.5)	1.2

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

(備考) 29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.8%減、2月は同0.4%増、3月は同0.1%増となった。

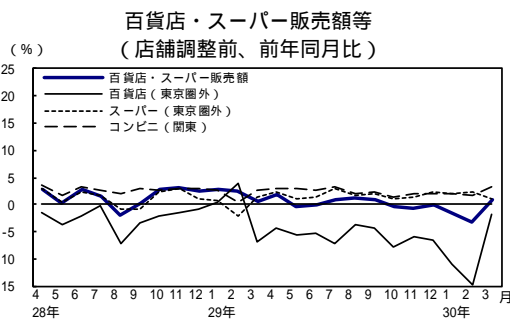
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、衣料品等の不調により、前年を下回った。2月は、衣料品等の不調により、前年を下回った。3月は、家庭用品等の不調により、前年を下回った。

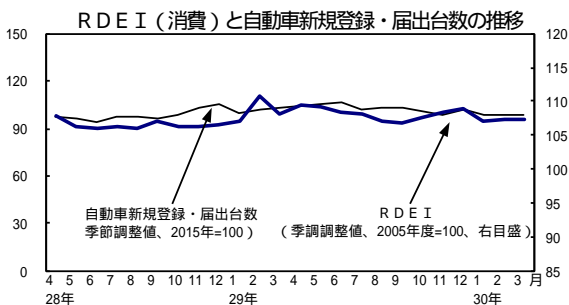
スーパーは、1-3月期は、家庭用品、衣料品等が不調であったものの、飲食料品及びその他商品が好調だったことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「3月下旬から好天に恵まれ、来園者数、飲食物販売の増加につながっている(テーマパーク)」など「やや良くなっている」とする回答が増加した。



	30年1-3月	30年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	1.0	1.8	0.4	0.1
百貨店・スーパー(*2)	1.3	1.7	3.1	0.8
百貨店(*3)	9.0	11.0	14.7	1.7
スーパー(*3)	1.7	1.9	2.4	0.9
コンビニ(*3)	2.3	2.1	1.6	3.2
乗用車(*4)	3.4	0.4	3.6	5.7
(季節調整値)(*4)	1.7	3.0	0.1	0.8



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同(月)期比

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同(月)期比

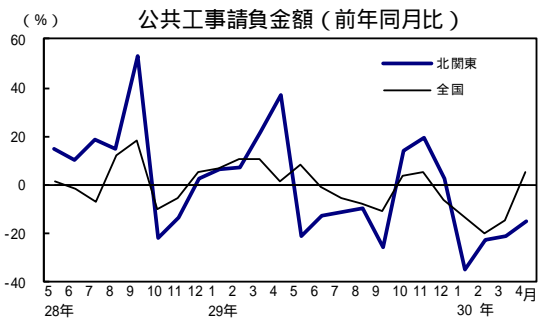
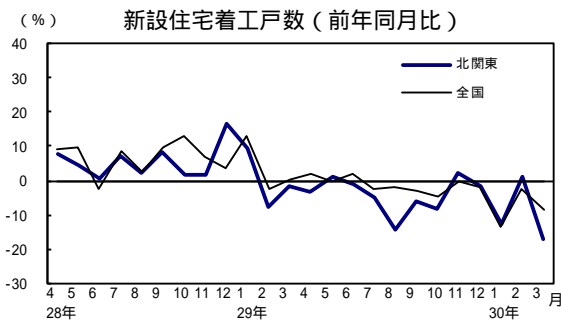
・百貨店、スーパーは、関東経済産業局の東京圏外(茨城、栃木、群馬、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

・コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

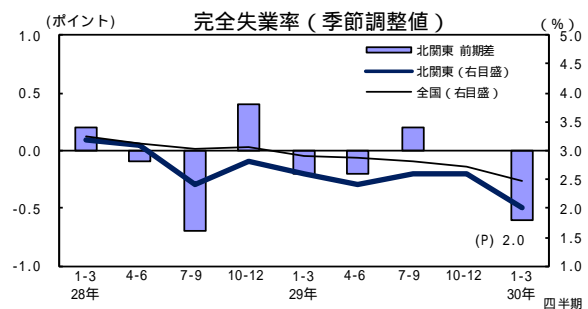
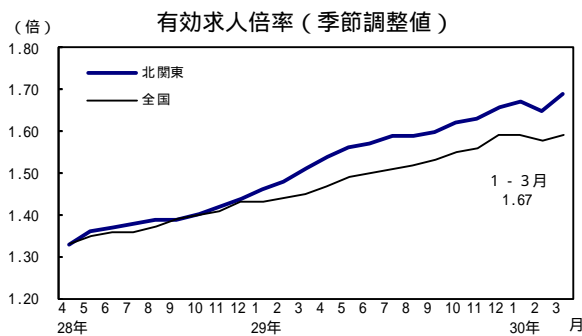
(2) 住宅建設は前年に比べて大幅に減少している。
分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。季節性が認められなかったことから原数値と同じ。
2. 1 - 3月期の値は暫定値。

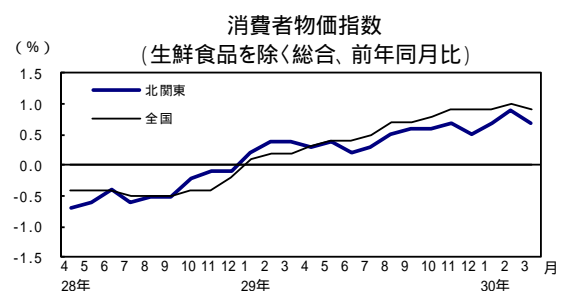
景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [雇用関連 (現状)]
「大卒等の一般求人は、例年以上に順調で、求人者、企業共に増えているものの、間接的業務の求人は、やはり伸びてこない。特に事務系職種は難しい(学校[専門学校])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年4 - 6月	7 - 9月	10 - 12月	30年1 - 3月	30年4月
倒産件数 (前年比)	83 10.8	76 1.3	70 26.3	94 4.4	22 15.8
負債総額 (前年比)	132 35.6	202 65.9	70 61.9	249 50.4	38 33.0



(備考) 北関東は内閣府にて算出。

(3) 北関東

